

「和歌山市地域子育て支援拠点事業運営業務（和歌山市民図書館4階）」 事業計画書④

【子育て親子の交流の場の提供と交流の促進（通年）】について

拠点を訪れる親子が居心地よく過ごせる空間になるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

■親子同士の交流が促進されるための工夫

- ・利用者同士をスタッフが紹介、親しみやすい雰囲気作りをし、何気ない会話の中や、子ども同士の遊びの中などを通して、交流を促していく。
- ・新しい親子同士の出会いのきっかけ作りとして、子育て世代が興味をもてるイベントや講習会を企画実施していく。
- ・同じ悩みを持つ親同士が気軽に参加できるものや、月齢別にクラス分けしたものなど開催していく。

■未就園児を連れた保護者が居心地よく過ごせるような空間作り

- ・いつも清潔にし、おもちゃなどはこまめに洗ったり、消毒したりして、安心しておもちゃと触れ合ってもらえるようにする。
- ・乳児に、居心地よく過ごしてもらえるよう、ベッドやバウンサー、畳の配置を工夫し、安心して授乳おむつ替えをできるように、スペースを確保している。またその際、待っているきょうだいはスタッフが一緒に遊んだり抱っこしたりして、育児の手間を軽減できるようにフォローする。
- ・子育て中は睡眠不足や疲れている利用者も多いので、スタッフが声掛けをして話し相手になったり、子どもと遊んだりして少しでもリフレッシュ出来るように努める。



■交流の場に来た子供が楽しく過ごせる空間作り

- ・子どもが興味のもてるおもちゃや絵本を厳選し、手に届きやすい触れやすい陳列が出来る本棚や棚を配置している。
- ・おもちゃは手ざわりが良く、月齢に応じた発達を促したり、想像力を育むおもちゃを選んでいる。絵本も図書館と言う立地も活かしながら、こだわりのものを選び、くすの木に來れば、素敵な絵本やおもちゃとふれあえる、新しい出会いがあると感じてもらっている。
- ・ハイハイなどものびのび出来るように家具や畳の配置を工夫している。
- ・季節を感じられる行事などを開催。5月の節句や七夕、ひな祭り、お月見、ハロウィン等の行事を、乳幼児向けにアレンジしてもらえるように工夫している。



【子育て等に関する相談、援助の実施（通年）】について

子育てだけに限らず様々な悩みを抱える保護者に対して誠意ある対応ができるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

■安心して相談できるような環境づくり

- ・日頃から身近な存在として、子育てに限らず和歌山市のまちの情報や趣味などの様々は会話を通して、一人一人と関わり、話しやすいフレンドリーな対応を心掛ける。
- ・利用者に丁寧に関わり、子育て支援員としての専門家であることに自覚を持ち、保護者に寄り添っていくことで、信頼関係の醸成に努める。深刻な相談の場合は別室での対応など適切な環境を整える。

■相談対応時の心構えや相談を受けるための姿勢

- ・相談者の話す内容を遮ることなくじっくりと耳を傾け、適切なタイミングで質問やフォローアップを行う。
- ・否定や決めつけをせず、相談者が選択できるようにいくつかの情報を提供しながら、アドバイスを努める。
- ・相談内容の守秘義務を徹底する。

■必要とされる援助等に円滑に結びつけるための体制整備

- ・専門家の判断が要すると思われる相談に関しては、保護者の気持ちを受け止めた上で専門の医療・行政機関へ繋げていく。
- ・子育て支援に関する地域の主要ステークホルダー（自治体、各専門医療、地域団体など）との連携を強化する。

【地域の子育て関連情報の収集・提供（通年）】について

保護者にとって有用な情報や保護者が求めている情報を、できる限り迅速かつスムーズに提供できるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

■保護者のニーズ把握も含めた情報収集方法

- ・ひろばでの利用者との交流を通して、日頃から身近な子育てに関する情報、地域のお役立ち情報など共有するように努める。
- ・子育て支援ネットワークすくのびや地域との連携、活動を通し、子育て世代のニーズの収集を行いスタッフ間で共有し、SNS やニュースなどにもアンテナをはり、最新の情報を収集するよう努める。
- ・公式ウェブサイトや SNS を活用し、オンラインでのフィードバックや質問への対応を行う。利用者が匿名で意見を提供できる環境を整え、多様な声を収集する。

■保護者のニーズ・利便性に添った情報提供方法

- ・常に身近な存在として、利用者の求める情報に関して、気軽に尋ねられる雰囲気づくりをしていく。
- ・子育て支援関係機関から得た情報のポスターやチラシを掲示し、施設の目につくところに、子育てに関する関係機関のチラシやパンフレットを置く。また、直接利用者に配布する。
- ・Instagram などの SNS を活用し、施設の日常やイベントの様子を写真や動画をリアルタイムに発信することにより、保護者とのコミュニケーションを深める。
- ・各施設と連携し、公式ウェブサイトで市駅周辺の公共施設や、子育て支援の関連情報を PR、提供する。

【子育て及び子育て支援に関する講習等の実施（月1回以上）】について

未就園児を連れて参加する講座としてふさわしく、かつ子育てのヒントになるような講座が実施できるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

■参加のための工夫（内容、時間設定、参加方法等）

○内容

- ・定期開催のものは、短時間、安全に行えて、子どもの月齢に沿った内容で予約不要とする。
- ・月に1回程度は様々な講師による専門的な講習を開催し、子育ての知識を深めるような機会とする。
- ・費用面でなるべく利用者に負担のかからないようにする。
- ・親子で一緒に楽しむことができる内容とする。

○時間設定

- ・読み聞かせ会は30分、手づくりおもちゃは終日参加可能とする。
- ・専門家の講習等は子どもの月齢を考慮し、短時間の設定とする。

○参加方法

- ・開催を公式ウェブサイトやカレンダーで周知、予約制のものは期間を設け、公式ウェブサイトからの申し込みとする。

■講座内容の設定に関する考え方

- ・来所のきっかけになるような、親しみやすい内容を企画する。
- ・図書館内施設であることを活かして、読み聞かせ会を充実させ、本に親しむ機会を多くつくる。
- ・利用者のニーズを日々の会話のなかで把握し、講座テーマの参考にする。

【テーマ設定で意識していること】

- ・子育てに役立つ内容、保護者のリフレッシュになるような内容。
- ・子どもの感性を育むような内容。（人形劇や音楽コンサート）
- ・子どもや家族の健康につながるような内容。
- ・季節感や日本、和歌山の歴史や文化の伝承を意識した内容。
- ・多世代間の交流が促進されるような内容。
- ・パパの参加を促すような内容。（パパのトークタイム）
- ・妊娠期から参加できるような内容。（プレママプレパパ）



劇団パンによる人形劇



パパのトークタイム



手作りおもちゃ

【その他の子育て支援活動の実施】について

地域の実情、利用者のニーズ等に応じて、和歌山市民図書館4階に設置されていることを生かした活動、拠点施設内にとどまらない近隣エリアにおける子育て支援活動等、どのような取組を行うのか記載してください。

■取組内容について

○和歌山市民図書館4階に設置されていることを生かした活動

- ・市民図書館と相互の連携を図り従来通りの交流を続ける。
「すくすく赤ちゃんおはなし会」「ひらめきラボ」「はたらくクルマ」「まちあそび事業」などのイベントで、利便性の良い図書館施設を活用しながら協働する。
- ・いつでも本を借りられる好環境を大いに活かし、絵本や紙芝居などをひろば内で読み聞かせをしたり、保護者の相談に応じるなかで、育児に関する書籍を利用者に紹介するなど、本を通じた支援の側面も大切にする。



○和歌山市民図書館外に出向いた親子交流

和歌山市駅前広場で開催の「しえきのいま」、紀の川河川敷で開催の「シエキノカワ」など当法人主催イベントに、子ども向けの企画で参加。日頃のひろば利用者以外の親子参加も多く、図書館の外に出向き、外遊びや水遊びを通じて、「遊び」のなかで親子の交流を図る。



○高齢者、学生、地域団体との連携等

- ・学生対象のひろばの見学や実習受け入れは、毎年継続受け入れをしている学校に加え、新たな大学や団体の見学や実習の受け入れを積極的に行い、学びのための場を提供する。
- ・当法人の地域イベントやひろばの活動に、高齢者や学生ボランティア、地域団体の協力を募り、参加してもらうことで、多世代間の幅広い交流を促す。

■取組を実施することによる効果等について

図書館をはじめ、警察や消防などの公的機関、地域住民や地域団体、学校、学生との連携の取組の実施により相互の交流が深まり、良好で風通しの良い関係性を築くことが出来ている。特に規模の大きなイベントは波及効果も高く、地域の良さを再認識する機会ともなっている。また、ひろばの認知度も高まり、利用者間の繋がりに発展する絶好の機会となっている。近年、市駅周辺の再開発による子育て世帯の増加がみられる。ひろばと市民図書館と地域が連携しながら、地域全体で子育て世帯を見守り支えることが、地域への愛着を育み、やがて成長した子どもたちもまたこの地で子育てをしたいと思えるような未来を描きながら、これからもこの地域で継続して切れ目のない支援を続けていきたいと考えている。

